

バイオ系のキャリアデザイン

就職支援 **OG OB** インタビュー編

Interview ①

大阪府立大学 大学院生命環境科学研究科 応用生命科学専攻
発酵制御化学研究室 (助教)

三浦 夏子



出身大学・卒業年度：京都大学農学部応用生命科学科・2012年 博士後期課程 指導認定退学，2013年 博士（農学）
博士論文タイトル：Studies on subcellular localization of a moonlighting protein, enolase, and its foci formation

「現在の仕事について」

◆担当職務

研究（学生指導含む）・学生実験・講義（一部）

◆現在までのキャリアパスとその配属での仕事内容

博士号取得後，将来の研究展開を考えて必要と思われる手技や分野の知識を習得することを目標に，ポストドクに進みました。受け入れてくださった先生方，研究室や周囲の方々には，日々ご助力・ご指導いただき，大変有難かったです。

2009年4月～2012年3月 日本学術振興会特別研究員（DC1）（京都大学大学院農学研究科・植田充美教授）

・新規分離共生培養装置を用いたGMOからnon-GMOへの新機能付与法の開発

2012年3月 博士後期課程指導認定退学

2012年4月～2013年3月 教務補佐員（京都大学大学院農学研究科・植田充美教授）

・低酸素条件下における酵母細胞の経時的代謝解析

2013年3月 農学博士（京都大学・植田充美教授）

2013年4月～2014年7月 博士研究員（富山大学先端ライフサイエンス拠点・中川崇特命助教（当時））

・細胞外NAD前駆体の取り込み及び代謝経路解明

2014年8月～2014年9月 教務補佐員（京都大学大学院農学研究科・植田充美教授）

・新規熱耐性酵母の比較ゲノム解析

2014年10月～2017年3月 Postdoctoral Fellow（アメリカ国立がん研究所・Drs. Kevin A. Camphausen, Murali C. Krishna, James B. Mitchell, Aparna H. Kesarwala）

・DNA損傷応答機構の阻害によるがん細胞の放射線感受性増大

・三次元培養細胞とXenograftを用いたHyperpolarized Carbon-13 NMR imagingによるがん細胞代謝解析

2016年2月～2017年3月 日本学術振興会海外特

別研究員（NIH）（上記の在任期間中・同所属にて）

・Hyperpolarized Carbon-13 NMRを用いたがん代謝のリアルタイム解析

2017年4月～2018年3月 特定研究員（CREST）（京都大学大学院農学研究科・植田充美教授）

・メタノール資化性酵母を用いたハイスループット抗体産生技術の開発

2018年4月～ 現職

・G-body形成による代謝制御機構の解明

・サンゴ病原菌の生育阻止活性をもつ微生物機能の解明

◆そこでのやりがい

自分の出身分野やそれまでの研究とは背景やアプローチの仕方がまったく異なっていたので，知らなかったことがどんどん見えてくる楽しさがありました。

◆現在の会社・組織（アカデミアを含む）の魅力

着任して半年と少しですが，先生方と学生さんたちが和気あいあいとしていること，これまでに出会った学内の方々のお仕事が多様で，距離感も近いことが魅力です。

◆現在の就職を決めた理由

自身のバックグラウンドでもある応用微生物学について改めてより深く学びながら，新しい領域の開拓に向けて挑戦するために理想的な場所であると考え，応募しました。

◆将来設計（描けるキャリアパス）

30代，40代は，大学・大学院教育について実践的に学ぶとともに，現在の研究をさらに展開して推し進め，40代から50代前半までには，現在一緒に研究をしている方々やこれまで関わってきた，またこれから出会う方々とともに，小さくても一つの領域を形成していきたいです。恩師の先生方が開かれていたような，最先端の研究者が世界中から集まる会議を開催し，教育活動を通

じて、さらに若い世代と新しい時代を切り拓いていくことが一つの夢です。

◆挑戦したいと思っていること

生物種・領域を超えた研究展開

◆社会人として一番感動したこと

学生時代に設計に携わった実験器具が、企業さん側でバージョンアップを重ねられて、販売が開始されたことと、その器具の元々の生みの親である先生にお会いでき、器具の歴史や背景についてお話を伺えたことです。

◆社会人として一番困難だったこと&どう乗り越えましたか

まだ1年目ですが、現所属や恩師の先生方をはじめ、沢山の方々のご指導・ご助力を頂いて、大変恵まれた環境に居させていただいているので、今後訪れる困難も乗り越えられるよう、精進していきたいです。

◆仕事のプロになるコツ

プロであるために為すべきことについて学び続けること

◆博士力、どこで発揮していますか？

駆け出しの研究者として、各方面からさまざまな知恵をお借りしながらの研究計画作成と実施に、また日常の対話から視野を広げる際に、博士課程で身に着けたことを生かしながら洗練を図っているイメージです。

「人生について」

◆何のために働くのですか？

あまり考えたことがなかったです。働かない人生をどう生きればよいか想像しにくい、という感覚が一番近いと思います。

◆ご自分にとって、お金を稼ぐ意味

できることが増えると同時に、それで何を為したかが問われることでもあると思います。

◆ワークライフバランスで工夫していること

その時その時、居る場所ごとに気持ちを切り替えるようにしています。

◆現在の夢

漠然とですが、(間接的にでも)宇宙で実験してみたいです。あとパラオの海に潜って巨大なサンゴを見てみたいです。

◆将来の展望

何が起こるか分からない人生を、最後には「面白かった」と言って終わるように、生きていけたら良いと思います。

「後輩へ」

◆学生時代にやっておいたらよかったと思えること

研究室配属までの間に、興味のあることに対して深く考え、努力と挑戦をもっと積み続けていれば、さらに違う世界が見えていたかもしれないと思います。

◆その他なんでも、後輩に伝えたいこと

私たちの今いる時間は、終わってしまえば二度と経験できない貴重な期間で、自分の中に、これからの人生の糧となるものを形成する時間でもあると思います。どんなときでも、皆さんの姿を見てくれている人は必ずいると思うので、お互い、感謝を忘れず頑張りましょう。

連絡先 E-mail: miura.natsuko@biochem.osakafu-u.ac.jp

Interview ②

株式会社島津アクセス (係長)

宮本 聖子

出身大学・卒業年度：大阪大学大学院工学研究科生命先端工学専攻・2011年12月 博士後期課程修了

博士論文タイトル：抗寄生虫薬生産菌における新規放線菌ホルモンの発見とホルモンリセプターによる二次代謝制御機構の解析



「現在の仕事について」

◆担当職務

フィールドインストラクター

① HPLC や LCMS などの分析機器をご利用いただいているお客様に、測定原理や分析操作、日常のメンテナンス方法などをオンサイトで説明します。

②分析データを安心安全に管理されたいお客様や、分析・

管理業務を効率化されたいお客様に、ソフトウェアの機能紹介や運用方法のご提案をします。

③分析機器やデータ管理システムの導入を検討中のお客様に、製品の魅力をご理解いただくための技術説明やデモンストレーションをします。

◆現在までのキャリアパスとその配属での仕事内容 2011年10月～

学校法人北里研究所生命科学研究所に博士研究員として就業。ゲノム解読された放線菌を宿主として、天然由来の有用物質を生産させるシステムの構築について研究。

2013年12月～

テンプスタッフ株式会社入社。派遣社員として株式会社島津アクセスに就業。フィールドインストラクター。

2014年6月～現在

株式会社島津アクセス入社

◆そこでのやりがい

自分の知識や提供するサービスが、目の前にいるお客様の役に立てることを日々実感できること。

◆現在の会社・組織の魅力

意見を発言しやすい環境であるところ。新しいことへの挑戦を後押ししてくれる風潮があるところ。

◆現在の就職を決めた理由

将来、大学教授を目指すような器ではないと感じながらも、研究が好きだからという理由で、アカデミアで博士研究員をしていました。そんな折、ある分析機器メーカーの講習会を受講し、講師の的確な指導と幅広い知識に感激しました。自身で研究するだけでなく、研究や開発に携わる人を技術やノウハウでサポートするような職種も魅力的だと感じ、現在の仕事に転職しました。

◆将来設計（描けるキャリアパス）

入社時は発足したばかりで1名だったフィールドインストラクターが、現在7名にまで増員されました。会社にとってもお客様にとっても必要不可欠な部署として拡大し、チームを率いられるような存在になりたいと思います。

◆挑戦したいと思っていること

縦割りの組織に横串を刺せるような仕事がしたいと思っています。また機会があれば、国内にとどまらず海外のお客様にもサービスが提供できればと考えています。

◆社会人として一番感動したこと

社内や関連会社のクチコミで、日本全国から仕事の依頼を頂けるようになったこと。最近では、お客様同士のクチコミで訪問依頼を受けたケースもありました。

◆仕事のプロになるコツ

プロであることを常に意識し、妥協しないことです。

◆博士力、どこで発揮していますか？

プレゼンテーションやお客様とのコミュニケーションの場で発揮していると思います。学生時代は研究室に籠って対人能力なんて磨けない、と思うかもしれませんが、研究発表や後輩指導などで意外と鍛えられるものです。お客様の理解や興味のレベルに応じて開ける引き出しを調節する力や、引き出しの数を増やすために率先して学習する力が私の博士力だと思います。

「人生について」

◆何のために働くのですか？

もちろん「生活するため」ですが、「やりがいを感じるから」でもあります。幸いにも、好きなことを仕事にさせていただいています。

◆ご自分にとって、お金を稼ぐ意味

自分と家族の生活を豊かにすることです。

◆ワークライフバランスで工夫していること

仕事とプライベート、無理に分けないことが私にとってのバランスの取り方です。

◆現在の夢

女子力向上。健康な体づくり。

「後輩へ」

◆学生時代にやっておいたらよかったと思えること
日本のことをもっと学んでおくべきだったと思います。

◆その他なんでも、後輩に伝えたいこと

学生時代に得た研究知識、異文化交流、人脈など、すべてが現在の自分を形成した礎になっていると感じます。いろんな経験を積んで、将来どんな自分ができあがるのか楽しんでください。

連絡先 E-mail: kmiyamoto@sac.shimadzu.co.jp